

第4学年 道徳学習指導案

1組 計29人 (男子15人, 女子14人)

指導者 野下賢剛

- 1 主題名 「友達のために」(2-(3) 友情・信頼, 助け合い)
読み物資料「二十五人へのおくりもの」(学研教育みらい4年)

2 主題について

(1) 内容項目と

その系統

【低学年2-(3)】

友達と仲よくし、助け合う。

【中学年2-(3)】

友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。

【高学年2-(3)】

互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。

(2) 指導内容についての基本的な立場

友情は、互いに相手の立場に立ち、思いやり、助け合い、共に向上しようとする気持ちの中で育まれるものである。また、信じて頼ることは、人間関係を円滑にし、社会に適応できる態度や習慣を身に付けるための基礎となる。ここでは、よりよい友情関係をつくっていききたいという願いを基に、互いの思考や行動を理解し、共に助け合い、誰とでも仲よく過ごしていこうとするための大切な考え方を身に付けていくこととなる。

この期の子どもたちは、日常生活を送る中で様々な友達と関わりをもち、友情を深めようとしている。しかし、自分本位な考え方や利害の感情、打算的な考え、労苦からの逃避、怠惰な気持ちなどの心の弱さから、なかなか望ましい人間関係が築けないことも多い。それらの心の弱さと、よりよく生きようとする心の間に起こる葛藤を乗り越えていくためには、友達を思いやり協力することで、助け合っていこうとする姿勢が大切であることを伝えていく。

そこで、本主題では、友達のよさに目を向け、広い心で友達を受け入れることを考えられるようにしていく。相手のことを思いやり、理解することで友情関係が深まり、気持ちが通じ合うことで信頼関係が生まれることを理解できるようにする。また、友達の幸せを願う態度を身に付けることによって、友情に満ち溢れた関係の輪が広がり、明るく楽しい社会を築き上げることにつながるということに気付けるようにする。これらのことにより、子どもたちが友達のよさに目を向けることの大切さを自覚し、進んでよりよい人間関係を作り上げようとする態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造 (価値構造図)

第3学年及び第4学年

友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする態度を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

対自分	ア	友達を大切にできて気持ちがいい	(自己の快感)
	イ	友達を大切に自分が嬉しい	(自己の成長)
	ウ	友達との友情が深まる	(友情の深化)
対他者	エ	自分を助けてくれる友達に感謝する	(他者への感謝)
	オ	助け合うと友達にも喜ばれる	(他者の幸福)
	カ	友達と理解し合える	(他者との共感)
対社会	キ	友情に満ち溢れた仲間関係ができる	(仲間意識の向上)
	ク	みんなを大切にできる学級ができる	(望ましい学級の形成)
	ケ	信頼し、助け合う社会ができる	(魅力ある社会の実現)

二面性

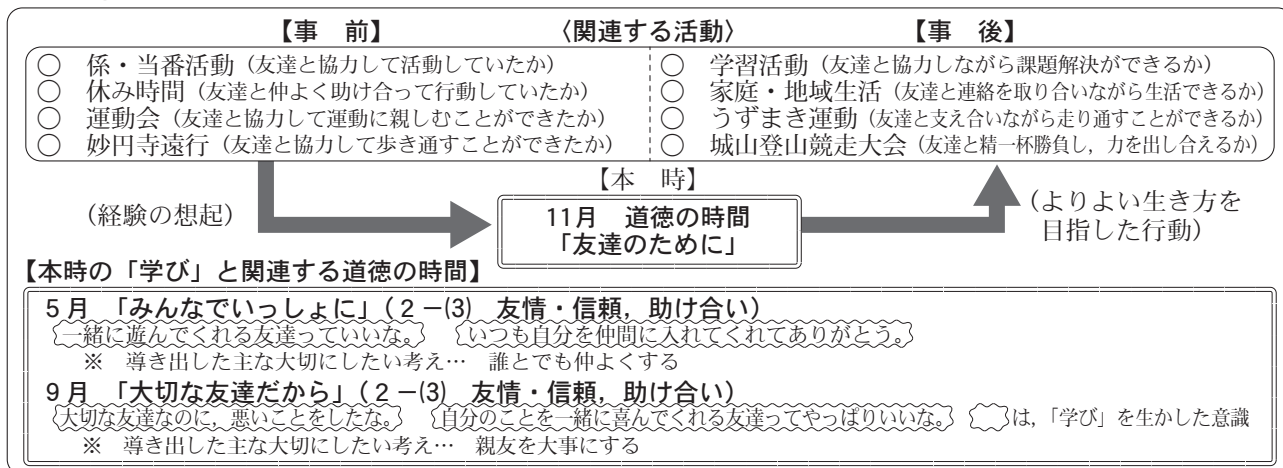
実践を阻む要因

- a 自分本位な考え (誰かが助ければいい)
- b 他への欲求 (他にすることがある)
- c 意欲の欠如 (助ける自信がない)
- d 怠惰 (助けるのは面倒だ)
- e 好悪の判断 (人によって助ける)
- f 無関心 (自分には関係ない)

心の葛藤

- ①友達のよさに目を向ける (姿勢) ②広い心で受け入れる (思慮)
③誰とでも仲よくする (思いやり) ④相手のことを理解する (理解) ⑤助けようと強く思う (意志)
⑥協力することのよさを考える (意義) ⑦みんなを大切に思う (共生) ⑧助け合う関係をつくる (助け合い)

(4) 本主題に関する「学び」の関連



3 子どもの実態

(調査人数29人 複数回答あり H22. 9. 21)

(1) 本主題に関する経験場面①

友達を助けることができた経験	人数
・ 危険なときに教えてあげた	7
・ 困ったときに助けてあげた	6
・ 友達がけんかをしてたときに助けた	5
・ 物を貸したり拾ったりした	5
・ 怪我した友達を保健室に連れていった	4
・ 友達を仲間に入れることができた	2

(2) 本主題に関する経験の理由①

友達を助けることができた時の気持ち	人数
・ 助けられてよかった (安心した)	16
・ 嬉しかった (ありがとうと言われて)	6
・ 大丈夫かな (まだ心配)	3
・ また続けたい (これからもやりたい)	2
・ 友達が喜んでくれてよかった	2
・ 助けることができて気持ちがいい	1

(3) 本主題に関する経験場面②

友達を助けることができなかった経験	人数
・ 困っている子を助けられなかった	9
・ 怪我した友達を助けられなかった	7
・ 物を貸したり拾ったりできなかった	5
・ けんかを止めることができなかった	3
・ 危ない友達を助けられなかった	2
・ 泣いている友達を助けられなかった	2
・ 勉強等を手伝ってあげられなかった	1

(4) 本主題に関する経験の理由②

友達を助けることができなかった理由	人数
・ 他にすることがあったから	6
・ 急いでいた (間に合わなかった) から	6
・ 遊びに夢中だったから	5
・ 自分が嫌な思いをする (困る) から	5
・ 勇気がなくて助けられなかったから	3
・ 何をすればいいか分からなかった	3
・ 面倒くさかったから	2

(5) 道徳的価値の意義

友達と助け合うことはなぜ必要か	人数
・ 自分が困った時に助けてくれるから	7
・ 友達が嬉しい気持ちになるから	6
・ 互いに仲よく (嬉しく) なるから	5
・ 友達が助かるから	4
・ 一人では生きていけないから	3
・ 一人ではできないこともできるから	2
・ 友達が増えるから	2

(6) 道徳的価値に対する心構え

友達と助け合うためにどんな考えをもつか	人数
・ 友達を (すぐに) 助けようと強く思う	12
・ 友達とふれあう (大切に)	6
・ 助け合わないと自分が困る	5
・ 周りの友達の様子をよく見よう	4
・ 誰とでも仲よく親切にしよう	3
・ いつも仲よくしよう (思いやろう)	1
・ 仲間はずれしない (悪く言わない)	1

【考察】

学級のすべての子どもが、友達を助けることができた経験があり、それらは学校内外での経験を想起していることが分かる。友達を助けることができたときの気持ちとしては、自分自身の心地よさや友達から感謝された喜びを挙げている。一方、友達を助けたくても助けることができなかった経験も多様で、その理由としては、「他にすることがあった」、「急いでいた」など、他への欲求が主な要因となっていることが分かる。また、友達と助け合うことの意義では、「自分が困った時に助けてくれるから」と、物事の損得を意識する子どもが多い。加えて、相手を意識した「友達が嬉しい気持ちになるから」、「お互いに仲よくなれるから」などが挙げられている。そして、友達と助け合うための心構えでは、「友達を助けようと強く思う」という考えが多く、次いで「友達とふれあう」、「助け合わないと自分が困る」という考えが挙げられている。

この調査を踏まえ、以前行った実態調査と比較すると、友達を助けることができたときの気持ちで、「ありがとうと言われて嬉しい」という考えが増えた。これは、今回扱う資料の内容とも関連する考えなので、資料の主人公の気持ちに共感できるようにしながら大切に扱っていきたい。また、友達と助け合うことの意義で、「友達が嬉しい気持ちになる」、「友達が助かる」と、相手の幸せを意識した考えが増えていることをよい傾向ととらえ、このような考えをもっと広げられるようにしていく。さらに、友達と助け合うための心構えで、「友達を助けようと強く思う」という意識が高まっているので、今回、子どもたちに意識してほしい「友達のよさに目を向ける」という考えと併せて大事に扱っていくようにする。

このように、友達と助け合うことの意義や心構えを、自分、相手、集団社会という見方・感じ方・考え方の対象の観点から見つめることで、友達と助け合うことのよさを多様に把握できるようにしていく。その中で、自分がより大切にしたい考えを選択する活動も取り入れ、これからの生活に生かしていきたい心構えを明確にしていくことで、道徳的実践力の育成に努めていきたい。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

転校してきた林さんはいつも一人ぼっちでいた。周りのみんなは遊びに誘うが、林さんの表情は硬く、誘いにももらないのである。そんな様子を見ながら「わたし」も声を掛けられずにいた。そんな時、林さんが一生懸命に書いているノートのをのぞくと、服のデザインがされていた。デザイナーになりたいという林さんの夢を知った「わたし」は、林さんがかいた服のデザインを学級新聞に載せることを思いつく。友達に似合う服のデザインの紹介により、林さんは友達に称賛されるようになり、林さんから感謝の手紙を受け取る「わたし」であった。

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場 面	価値の分析 (価値構造図より)	予想される子どもの反応
1 林さんに声を掛けられない「わたし」【心の弱さ】	a 自分本位な考え (誰かが助ければいい) c 意欲の欠如 (助ける自信がない) ----- ②思慮 ③思いやり ④理解 ⑤意志 ⑦共生 ⑧助け合い	<ul style="list-style-type: none"> 林さんはかわいそう。 みな声を掛けづらくなったんだ。 誰かが声を掛けないといけない。 「わたし」に声を掛けてほしい。
2 ノートをもとに、林さんに声をかけた「わたし」【望ましい姿】	イ 自己の成長 (対自) カ 他者との共感 (対他) ----- ①姿勢 ②思慮 ③思いやり ④理解 ⑧助け合い	<ul style="list-style-type: none"> 林さんによいところがあったんだ。 よく「わたし」は声を掛けたな。 自分だったら声を掛けられるかな。 林さんも嬉しかっただろうな。
3 林さんのデザインを学級新聞に載せようと考えた「わたし」【望ましい姿】	ウ 友情の深化 (対自) オ 他者の幸福 (対他) ク 望ましい学級の形成 (対社) ----- ①姿勢 ③思いやり ⑤意志 ⑦共生 ⑧助け合い	<ul style="list-style-type: none"> 「わたし」はよく思いついたな。 友達のことをよく考えているな。 林さんは幸せ者だ。 こんな友達がいたらいいな。 学級の友達はどう思うかな。
4 林さんから感謝の手紙をもらう「わたし」【感動】	ア 自己の快感 (対自) オ 他者の幸福 (対他) ----- ③思いやり ④理解 ⑥意義 ⑦共生 ⑧助け合い	<ul style="list-style-type: none"> 林さんが褒められてよかった。 林さんは喜んだだろうな。 「わたし」のおかげだ。 「わたし」も喜んだだろうな。

この資料は、おとなしい転入生のことを思いやりながら、学級の友達の理解を得て、仲間に入れていこうと努力する「わたし」を主人公とする話である。転入生に対する学級集団としての接し方が大きなテーマになっているという点では、これまでに転入生を多く受け入れた経験がある本学級の子どもたちが共感しやすい資料であるといえる。子どもたちは、転入生のことを気遣う「わたし」と自分を重ね合わせたり、友達のために積極的に行動する主人公を羨望の思いで見つめたりしながら、これからの自分を考えることができるであろう。

今回、本学級の実態から明らかになった、「友達のよさに目を向けることが難しい」という課題を踏まえながら、友達をもっと大切にするためにはどのような気持ちが必要かを考えるために、この資料を活用する。

5 本 時

(1) 目 標

友達をより大切にするための考えを導き出し、友達をより大切にしようとする意欲を育てる。

(2) 指導に当たって (研究内容との関連)

○ 「見つめる」過程では、中心発問により資料の主人公の気持ちに迫る場面で、工夫したワークシートを活用した書く活動を取り入れる。そのことで、子どもたちが、観点をもって自分の考えを明確にしたり、その観点を踏まえて友達の考えとの交流をしたり、大切にしたい考えを自ら選択したりすることができるようにする。さらに、友達の考えとの交流の際には、交流相手を限定するなどの効果的な方法にも目を向けていく。

○ 「深める・高める」過程では、「見つめる」過程とのつながりをもたせながら、大切にしたい考えと関連する経験を振り返り、「自分づくりカード」にまとめる活動を取り入れる。そのことで、関連する日常経験の場面では、大切にしたい考えが生かされた、または、これから生かせると気付くことができるようにし、日常生活への実践意欲の向上を図る。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
<p>1 (分)</p> <p>気が付く (5)</p>	<p>1 自分が見つけた友達の良いところについて話し合う。</p> <p>友達はどんなよいところがあるでしょう。よさを紹介された友達はどんな気持ちですか。</p> <p>(A君) B君は誰にでも優しいです。ぼくもB君のように友達に優しくしたいです。</p> <p>(B君) A君がぼくのことを褒めてくれてうれしいです。</p> <p>友達をもっと大切にするためには、どんな気持ちをもてばよいだろう。</p>	<p>☆ 実態調査の結果を電子黒板に映し出し、みんなで話し合うことで、友達のように目を向けることの効果を考えられるようにする。</p> <p>○ 友達よさを見つけてもらう嬉しさを共有することで、望ましい友人関係の在り方を考えることができるようにする。</p>
<p>2 (30)</p> <p>見つける (30)</p>	<p>2 資料「二十五人へのおくりもの」を視聴し、主人公の「わたし」の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 転入生の林さんに声を掛けられない「わたし」の気持ちについて話し合う。</p> <p>声を掛けたい ← 声を掛けにくい</p> <p>対自 ・ 声を掛けてあげたいな。 ・ このまま自分だけ遊びに行きたくないな。 ・ このままでもいいのかな。 ・ 林さんも声を掛けてほしいはず。</p> <p>対他 ・ 声を掛けたら迷惑かな。 ・ 声を掛けたら林さんにどう思われるか心配だ。 ・ 誰かが声を掛けてあげればいいのに。 ・ 声を掛けても林さんはのってこないかもな。</p> <p>対社 ・ 林さんの力になれてよかった。 ・ 林さんを喜ばすことができた自分が嬉しい。 ・ 林さんが喜んでくれてよかった。 ・ 林さんとよい友達になれそうだ。 ・ 林さんがこれから明るくなるといいな。 ・ 学級のみんが林さんを認めてくれてよかった。 ・ これからみんなで遊べるといいな。 ・ これから林さんも仲間になってよい学級になるといいな。</p>	<p>○ 資料を視聴後、感想を出し合うことで、話し合う場面の焦点化を図るようにする。</p> <p>○ 転入生のことを話題にし、受け入れた経験話を話し合うようにする。</p> <p>○ 友達への思いやりから、声を掛けたいという気持ちと共に、声を掛けることをためらう要因についてもとらえさせ、声を掛けるべきか否かで迷う「わたし」の気持ちに、より共感できるようにする。</p> <p>○ ワークシートに表れた、子どもたちの考えを、3つの観点(対自分、対他者、対集団社会)で分類すること、子どもたちが友達の考えと交流しやすくなるようになったり、今後に生かしたい大切な考えを選択しやすくなるようにする。</p>
<p>3 (10)</p> <p>深める・高める (10)</p>	<p>3 これまでの自分を振り返り、友達を大切にすることに關する「大切な考え」と経験を結び付ける。</p> <p>友達を大切にすることができた時のことを思い出してみよう。その時、「大切な考え」の中でどの考えを大事にしてみましたか？</p> <p>運動会のリレーチームで、友達と協力して練習し、1位をとることができました。その練習の時、走りが速い人も遅い人もみんな仲間という考えをもっていたような気がします。</p>	<p>○ 「自分づくりカード」を用いて、本主題に關する「大切な考え」をまとめ、これまでの経験と結び付けて考えることにより、その後の生活への実践意欲を高められるようにする。</p> <p>○ 実態調査を生かし、称賛の言葉掛けや経験の振り返りを助言することで、まとめることが困難な子どもが、記入しやすくなるようにする。</p>

本主題に關わる考え方を広げたり、深めたりすることができたか。
【ワークシート・発言】
ワークシートを工夫することで、子どもたちが自分の考えを明確にし、どの観点に向いているかの傾向をとらえ、3つの観点を基に友達と交流することができるようになる。